



2030年に向けて  
世界が合意した  
「持続可能な開発目標」です



## 一般社団法人地域連携ネットワークみえ

三重県伊勢市御薮町長屋1963

(株)エホリューション内 (☎0596-63-5080 FAX0696-65-7006)

E-mail [info@3c-mie.net](mailto:info@3c-mie.net) <https://3c-mie.net/>



毎月・毎日、何かの記念日があり〇〇の日というのがあります。

10月も1日は10.01でメガネ日に始まり31日の日本茶の日まであります。臨濟宗の開祖栄西が宋から帰国し茶の種をと製法を持ち帰ったことから日本茶の始まりとして記念日にしたそうです。これらはごく一部で他にもたくさんの記念日があります。

そうした中、10月8日を鳥羽の日とし、かつ10月を鳥羽の月とされていることをご存じでしょうか。

日は語呂合わせ、月は10月=October(オクトーバ)から、地域で組織する実行委員会で定められたそうです。ということで今回は、鳥羽市の話題をお届けします。



## 鳥羽市からのご紹介 ~「海のシリコンバレー」から、新たな流れを期待して~



鳥羽市 中村欣一郎市長

第六次鳥羽市総合計画では、将来像を「誰もがキラめく鳥羽 海の恵みがつなぐ鳥羽」とし、将来に向けて、皆が活躍し、地域資源を最大限に活用していくことを目指しています。

伊勢志摩地域は観光地であるため、地域資源と言うと、「食」や「景観」がクローズアップされることが多くありますが、実は、恵まれた自然環境を背景に海に関する研究機関や教育施設が立地しています。

鳥羽市周辺は海の生物にとってとても豊かな海域です。「豊穰の海」とも言われるこの海は、広大な森林を背後に持つ木曾三川から流れ出るミネラル豊富な伊勢湾の海水と、熊野灘を北上する黒潮の潮流とがぶつかり合う好漁場となっています。

こうしたことから、本市の水産研究所や隣に建つ三重大学の水産実験所はもとより、様々な研究・教育機関が点在し、それぞれが先進的な研究を行っており、まさに「海の恵みがつなぐ」縁が生まれています。

この鳥羽市を中心とする研究機関が集まる素晴らしいフィールドを、ここから新たな事業が生まれるのではないかと、本市の産業や教育に大きな影響が出るのではないかと期待を込めて、「海のシリコンバレー」と呼んでいます。

これらの機関の連携を強化することで新たな関わりが生まれることを目指し、10月1日(土)に、関係機関で「伊勢志摩海洋教育研究アライアンス」協定を締結しました。またこれを記念し、「海のシリコンバレーシンポジウム」も開催しました。

シンポジウムでは、各機関の研究テーマの紹介や使命と考えていることのほか、実際に地域で取り組んでいることや次世代育成に向けての思い等が語られ、それぞれの施設が相互理解を深めることができました。

今後の展開に期待を寄せているところです。

### SDGsまなブック

鳥羽市では、海辺等の豊かな自然の中で住民生活が営まれており、海の環境を守る活動や持続可能な暮らしを送るための工夫が行われています。これらは、国連が定めるSDGs(持続可能な開発目標)の考えにも通ずるところがあり、鳥羽の魅力の本質的な部分だと言えます。

この度、地域の魅力を通じて学ぶことができる様々な体験プログラムを取りまとめたパンフレット「鳥羽のSDGsまなブック」を作成しました。鳥羽での経験を通じて、「社会を支える」「経済の循環」「環境を守り、活かす」という点から地域課題を考えていただく一助となればと考えています。

### 海藻博士のお仕事体験

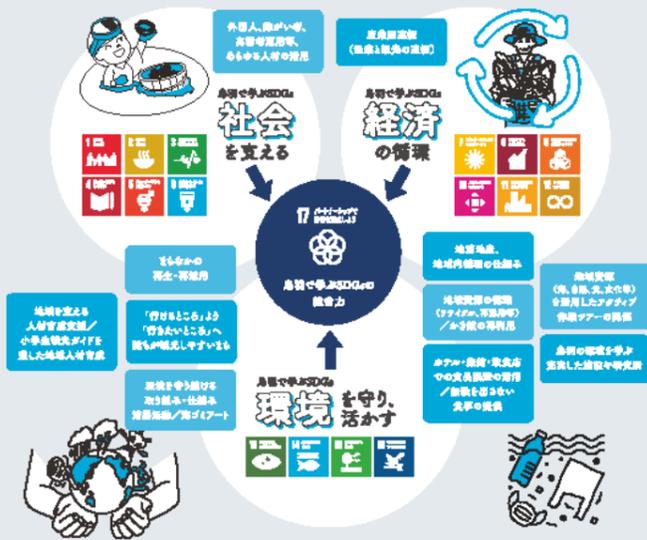
研究機関の知見を教育に活かす一環で、市水産研究所では、市内の子ども達を対象に「海藻博士のおしごと体験」を開催しています。水産研究所の職員が海藻博士として生物の分類・観察や海水の飲み比べなどの指令を出し、子どもたちが挑戦していく中で、鳥羽の海に関する理解を深めるとともに、鳥羽の水産業について新しい発見をする機会となっています。また、SDGsの目標のひとつである「海の豊かさを守ろう」を学ぶ取り組みとして、企業に協賛いただき稚魚の放流体験を行っています。



## ひと目でわかる 鳥羽のSDGs



鳥羽ではさまざまな分野でSDGsの取り組みが行われています。地域全体で社会を元気に、環境を守り、暮らしを豊かにし、それぞれの取り組みは、SDGsで定められるそれぞれのゴールに向けての取り組みであり、最終的にはそれらの協力力で、持続可能な社会を創り出しています。鳥羽にお越しの際は、ぜひ鳥羽の取り組みやSDGsの取り組みをご案内し、体験していただくことが可能です。



“まちづくり”ではなく、“まちあそび”をする地域おこし協力隊

鳥羽市答志島地域おこし協力隊 正林泰誠

私は令和4年4月より東京大学大学院を1年間休学して鳥羽市の離島答志島の地域おこし協力隊として活動しています。漁村の建築・集落研究の論文で答志島を知り、何度か訪れているうちに島の文化に惹き込まれ、実際に住んで建築活動をしてみたいという気持ちが芽生えました。活動内容としては喫茶店兼土産物店だった空き店舗を改修して、答志島の新たな教育拠点「ねやこや」を製作していくことです。活動の中で3つの意識していることを今回ご紹介したいと思います。



①島の教育の魅力化を目的とした多様な交流を作る

「ねやこや」は島留学\*の子どもたちの宿泊場所かつ、島の子たちの放課後の居場所として現在進行形で改修されています。ただし、ただの教育拠点ではなく子どもたちが多様な人と交流し、年齢や属性関係なく学び合う場所にしていきたいことを考えています。そのきっかけづくりとして水槽と釣り道具置き場、そして外の流し台を設置しました(右イメージ図参照)。漁でとってきた特殊な魚を水槽に入れてもらったり、一緒に魚釣りをしたり、外の流しでお話しながら魚を捌いたり、島の皆さんが得意なことを活かした日常の学びの場になっています。そして、島の皆さんはもちろんのこと島外からの学生さん、観光客の方もフラッと訪れる場となっています。誰かの特定の人のためではなくみんなの場所であり、島全体で子どもたちを見守る習慣があるからこそ成り立つ場所を目指しています。

地域おこし協力隊 正林の活動について発信しています! →  
ご連絡は shorin.umiarchi@gmail.com まで



2階で勉強する子どもたち



漁師さんが取ってきたタコやサメを触る



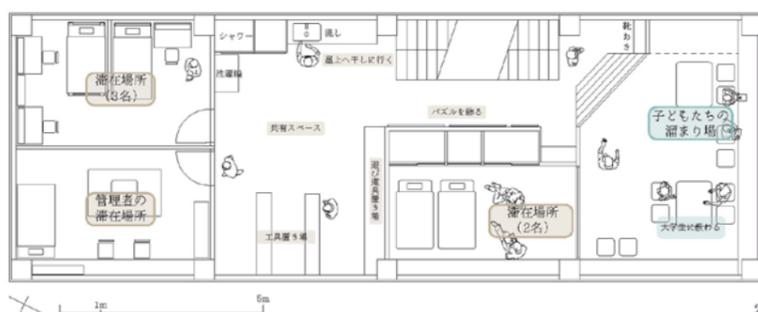
みんなで外の流しで魚を捌く



観光客が休憩しに立ち寄り地元の人とお話



1階



2階

\* 寝屋島の島留学: 島全体で子どもたちを見守る寝屋子制度を活かした、島外の子を一年単位で受け入れる取り組み

②建築更新に島のみなさんに参加していただく

島にはたくさんの井戸があり、それらは皆で掘ったりお金を出し合ったりすることで共有物として使われます。それと同様に「ねやこや」が島のみなさんに親しみを持ってもらえるように、建築の改修に参加していただいています。毎日いろんな方が手伝いに来ていただき、1人ではできない作業を一緒に行っています。そして、すぐに完成させるのではなく、島のみなさんを巻き込み、時間をかけて建築を更新ことで生まれるデザインを模索しています。



子どもたちと一緒に居場所をつくる

③地域おこし協力隊自身が楽しむ“まちあそび”

私の活動はわかりやすく説明すると建築を介したまちづくりとなります。しかし、まちの将来像をつくるために行う“まちづくり”というよりも、協力隊の自分自身が無理なく楽しむことを第一にした“まちあそび”と言えるのではないかと思います。時に小学生に混じって遊んだり、地元の人たちにコーヒーを屋台で振る舞いながらお話をしたり、その時にやりたいこと好きなことを活動に取り入れています。全国には多くの地域おこし協力隊があり、中には独りよがりになってしまい、本来の自分の活動の楽しさを見いだせない方もいらっしゃると思います。その方は自分の得意なことや好きなことを改めて見直して、活動を“まちあそび”として捉える必要があると思います。三重県に多くの“まちあそび”人が増えることに期待しています。



手作りの屋台でコーヒーをもてなす

「ねやこや」について詳しく知りたい方はこちらまで!

